



造酒屋敷の一部が見つかりました!!

仙台市教育委員会文化財課 平成28年10月15日(土)

調査概要

遺跡名	国史跡仙台城跡(造酒屋敷地区)	所在地	仙台市青葉区川内地区
調査原因	国庫補助による遺構確認調査	調査面積	約215㎡
調査主体	仙台市教育委員会(担当:文化財課)	調査期間	平成28年6月~10月(予定)

仙台城跡の整備に向けた調査を、6月から造酒屋敷跡で実施しています。造酒屋敷跡の調査は平成20年度から行っており、今回で4回目の調査です。今回の調査は、平成22年度に実施した第3次調査で見つかった建物跡や水利遺構の続きを確認して、これまでに見つかっている建物の規模や屋敷地内の使われ方を明らかにすることを目的として調査を行っています。

調査の結果、建物跡の続きは現在のところ明らかではありませんが、水利遺構の続きと考えられる溝跡や板材を組んだ木枠が見つかりました。溝跡からは板材の一部が見つかり、板を組んで作られた溝であったことがわかりました。木枠は板材を四角く組み底面に植物質の材を敷いている状況が確認され、溝跡と近い位置で見つかっていることから水に関係する施設の一部の可能性が考えられます。また、木枠の底からは18世紀頃の陶器が見つかったため、木枠が使用されていた年代が明らかになりました。

今回の調査では、水に関わる遺構が近い位置でまとも確認され、酒造りの場で水を管理する施設の様子が明らかになってきました。現在もこの場所は水が多く湧く場所で、屋敷地を維持していくために水の管理が必要だったことがうかがえます。

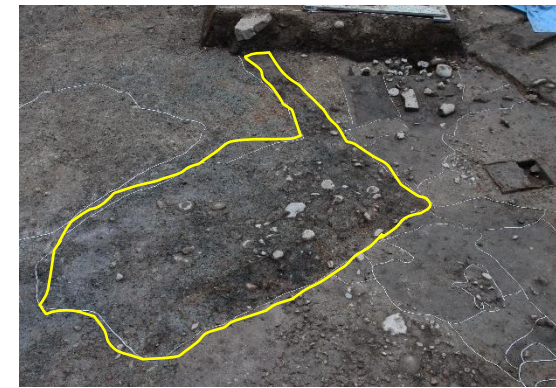


写真1 調査区西側の大きな土坑(黄線部)
用途は明らかではありませんが、溝が取り付くことから、水に関わる遺構と考えられます。



写真2 見つかった木枠
四方を板材で囲み、底には植物質の材が敷かれています。外側の一部(写真右側)には小さな玉石が敷かれています。



図1 仙台城跡空撮写真 (東から撮影)

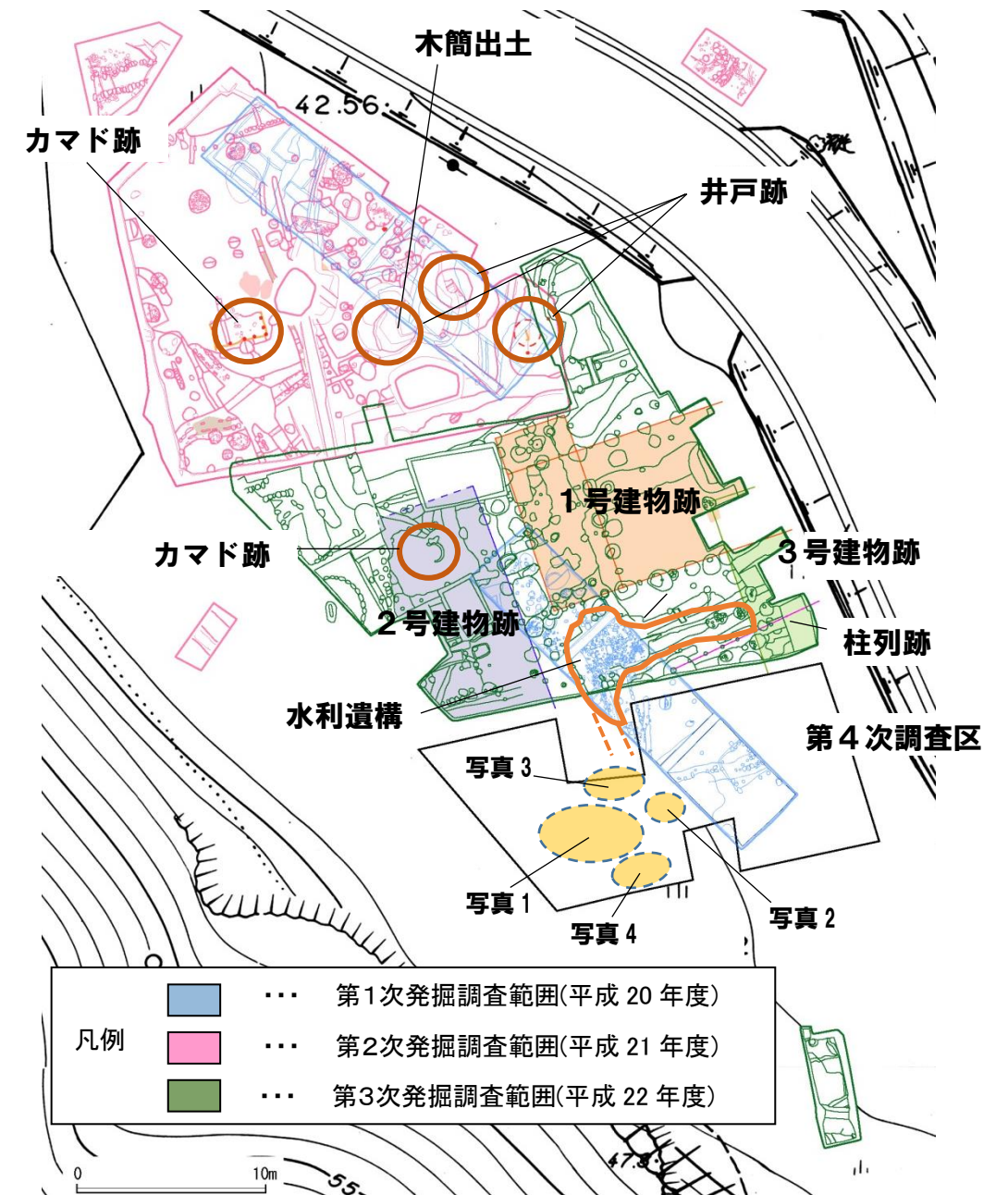


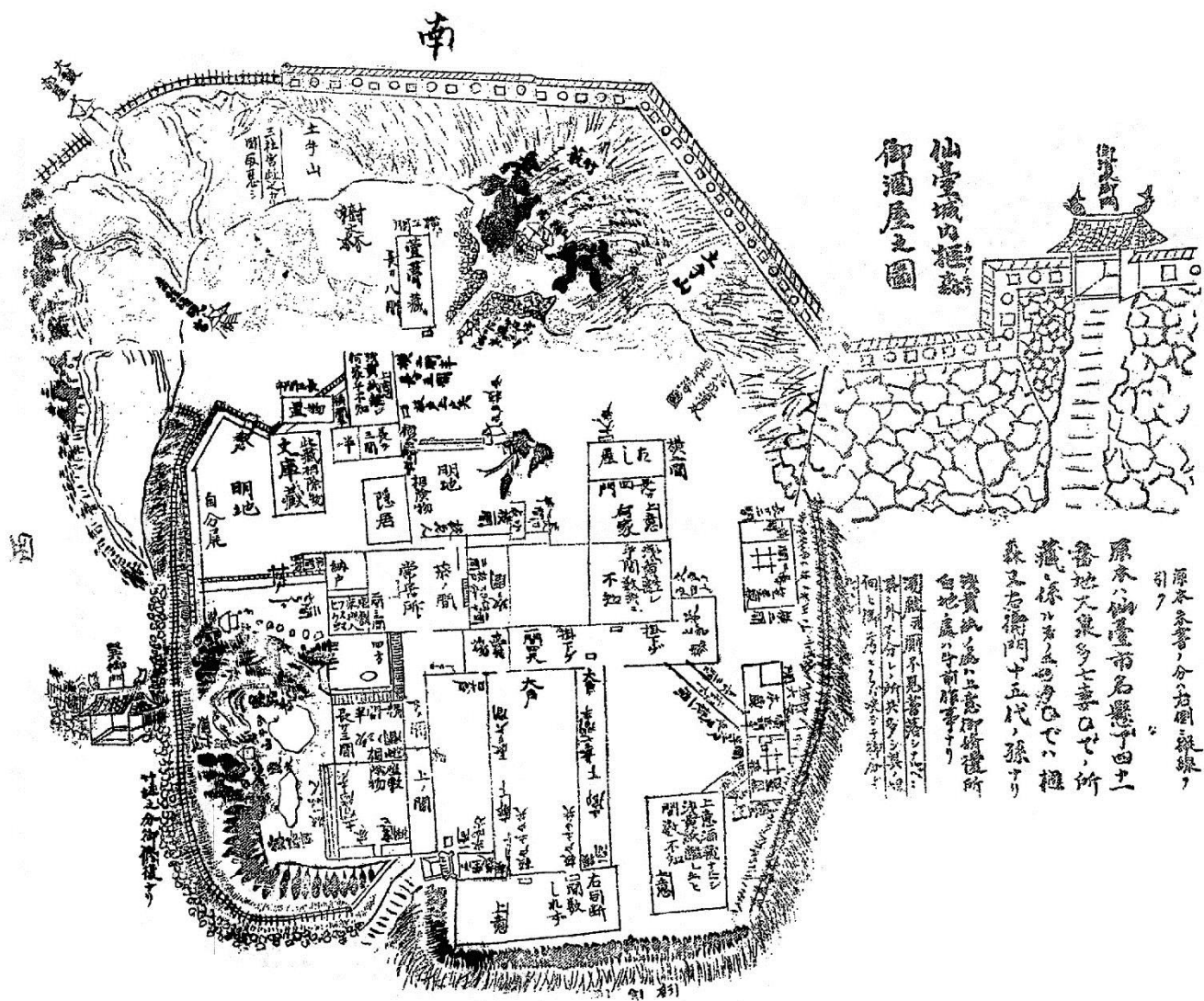
図2 これまでの調査範囲



写真3 水利遺構の続きと考えられる溝跡
溝跡からは板材の一部が両脇から見つかり、側面を板材で補強していたと見られます。



写真4 調査区南側で見つかった石敷き
数 cm 程の玉石が敷きつめられており、中には大きな礫も見られます。



仙台城内榎森御酒屋之図

(伊達邦宗『伊達家史叢談』2001 今野印刷株式会社復刻本 付図より引用) 大泉ひで氏所蔵 一部修正

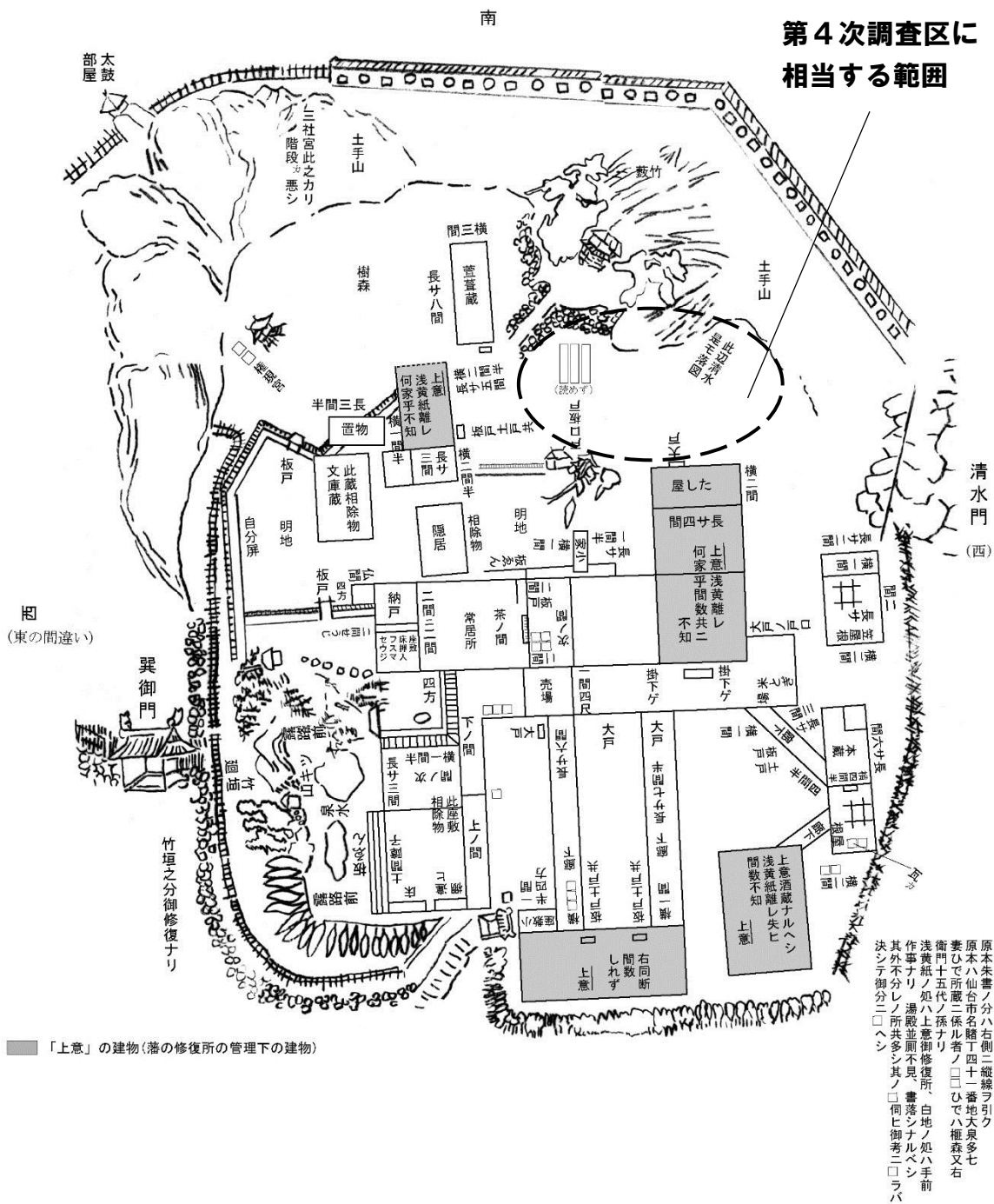
『伊達家史叢談』(大正 10 年[1921])に載せられている図

造酒屋敷の概要

造酒屋敷は、仙台城内で酒造りを行った場所です。伊達政宗は、徳川家重臣柳生宗矩の紹介で、慶長 13(1608)年に大和国(現在の奈良県)から又右衛門という職人を招き、仙台城内の一角に屋敷地を与え、酒造りに当たせました。又右衛門は出身地にちなんで「榎森(かやのもり)」の苗字を名乗ることを許され、以後、榎森家は明治 9(1876)年に廃業するまで、「御酒屋」として藩内で消費する酒を造り続けました。

これまでの調査で、「榎森与左衛門」と書かれた木簡が出土し、調査区のある平場が榎森家の屋敷地の一角であることが裏付けられました。また、酒造りの原料である米を蒸すためと考えられるカマド跡も見つかっていることから、実際に酒造りが行われていたと考えられます。

仙台城内榎森御酒屋之図



榎森御酒屋模式図 (明朝体の文字は、今回加筆したもの)
(左の図を描き直したもの)

図3 仙台城内榎森御酒屋之図と模式図